

関根 正二

1899(明治32)–1919(大正8)

自画像

関根正二は、福島県白河出身の画家であり、村山槐多とならび、大正期における夭折の新進画家として知られています。

この《自画像》は関根の描いた自画像のうち現存する唯一の油絵で、最も完成度の高い作品です。1918年の第5回二科会において、《信仰の悲しみ》、《姉弟》とともに出品され、奨励賞にあたる、樗牛賞（ちよぎゅうしょう）を授賞しました。

関根の技巧にとらわれない表現力と色彩感覚はこの自画像に見て取れるように今なお有効であり、その独自の世界観は鑑賞する者を魅了してやみません。